

「平成30年度に実施した仕事」の振り返りシート

記入日 平成 31 年 4 月 10 日

仕事の内容	職員採用試験			
担当部署・課長名	職員	課	人事給与	係 課長名 矢吹 勇一

この仕事は、どの【施策】の課題を解決するための手段ですか。	施策番号	行 - 2	-
【施策名】 効率的でスリムな行財政運営の実現	総合計画書 (ページ)	122	

予算名	款 2 総務部	項 1 総務管理費	目 1 一般管理費	事業 2 人事管理事務費
-----	---------	-----------	-----------	--------------

1 この仕事の目的	① 誰(何)を対象にしていますか。 一般事務で、採用年度に22歳から25歳になる受験生	→	① ①の対象数や量を、あらわすもの(対象指標) 第一次試験受験者数
	② ①をどのような状態にしたいのですか。[簡潔に] 市が求める人物像に一致した人材を採用され、職場の活性化が図れている。	→	② ②の状態になった数・量をあらわすもの(成果指標) 採用人数
	③ そのために何をしましたか。 前年度に引き続き、民間企業で実施しているSPI試験のように、一般常識を問う問題を実施した。また、一次試験合格者に対しては、課長職が面接官を行う集団面接試験、部長職が評価を行うグループワーク試験(受験者をグループに分け、グループで与えられたテーマに沿った成果物を作成し、評価する)を行った。	→	③ ③をどのくらい行いましたか(活動指標) 採用試験実施回数(一般事務)

		単位	平成28年度実績	平成29年度実績	平成30年度実績	平成31年度目標	平成32年度目標
2 指標の推移	対象指標	①の数値	人	372	317	246	
	成果指標	②の数値	人	14	13	13	
	目 標	②の目標値	人	14	13	13	
		目標値設定の考え方	退職職員人数分や市の定員等を充足させるための人数				
活動指標	③の数値	回	1	1	1		

3 経費	事業費(実績)	円	1,012,031	857,580	1,286,058	※人件費の所要人数は、基本的には「人」で表わしますが、一時的な仕事については時間数での表示も可とします。その場合単位を「時間」に変更してください。 人件費(再任用職員以外)年間単価は、8,244,000円 時間単価は、4,200円で計算してください。 【算出根拠】平成29年度決算数値。(退職手当組合負担金、共済費も含む。)	
	財源	一般財源	円	1,012,031	857,580		1,286,058
		特定財源	円	0	0		0
		(うち受益者負担)	円	0	0		0
	人件費(目安)	所要人数(再任用以外)	人	0.1	0.1		0.1
		所要人数(再任用)	人	0.0	0.0		0.0
		職員人件費(再任用以外)	円	825,300	825,300		824,400
	職員人件費(再任用)	円	0	0			
	事業費+人件費	円	1,837,331	1,682,880	2,110,458		

この仕事における市の裁量 市の裁量は大きい

4 環境変化	この仕事の開始時期(開始年度)、何を目的に開始していますか。 市役所の組織を維持するために、年度ごとに実施の必要性があるかを検討のうえ必要があれば実施する。
	開始当初と比較し、状況の変化はありますか。 退職者数の変化や、市全体の仕事量については、毎年変化する。

仕 事 の 内 容	職員採用試験			
担当部署・課長名	職員	課	人事給与	係 課長名 矢吹 勇一

5 市民等の意見	この仕事に関して、平成30年度中に寄せられた市民・議会等の意見、また、市民・サービス利用者等の実態やその意識について			
	優秀な職員を確保するための自治体間の競争が激しくなるなか、いかに優秀な人材を確保していくかについては研究する必要がある。			
6 市民協働	(1)市民協働の取組を行いましたか。ある場合は、取組手法の種類から番号を選択。（複数回答可）			
	取組みは無い	取組手法	【取組手法の種類】 ①共催 ②実行委員会・協議会 ③事業協力 ④事業委託 ⑤補助・助成 ⑥情報提供・情報交換（広報媒体： ） ⑦後援・場の提供 ⑧その他（ ）	
	(2)平成31年度に向け、さらに適した協働の形態とするための「考え」又は「気付いた」点			
7 課題	(1)「平成29年度に実施した仕事」の振り返りシート 「7 課題（2）」の内容			
	人物本位の採用試験に切り替えて以降、採用試験の一次試験受験者数が飛躍的に増加してきている。課長職を評定者とした集団面接や、部長職を評定者としたグループワーク試験に加えて、今後、新たな採用方法について引き続き研究していく。			
	(2)(1)の課題解決に向けた取組や、事務改善など、平成30年度に実施したこと。			
	自治体間において、優秀な人材を確保するために様々な取組みがある中、東大和市では翌年度に向けた採用試験の日程を他の自治体より早めることの準備をした。			
8 今後の方向性	(3)(2)を踏まえた今後の課題			
	平成31年度の採用試験は日程を早めて実施した結果を分析、調査することでより良い人材を確保するため、今後も検討を重ねる必要がある。			
	(1)仕事の方向性（「7 課題（3）」の課題解決に向けた具体的な改革・改善案など）			
	近年の社会情勢や景気の影響等により、採用試験の受験生自体が減少傾向にあるよう見られる。より多くの方に採用試験を受験してもらえるような取組みについて、検討する必要がある。			
	(2)上記(1)の改革・改善案を実現するために、克服すべき問題点、必要な調整・準備等			
	より多くの受験生に採用試験を受けてもらう、すなわち、より多くの受験生に東大和市の魅力を感じてもらえるような取組み、（東大和市のPR等）について、他団体の動向を踏まえながら検討する。			
	(3)改革・改善案による期待成果 上記(1)の改革・改善案を実施することで、成果面と経費面で現状からどのように変わりますか。			
成果	成果を向上させる。		経費	仕事の経費は維持する。
9 上半期終了時点の状況（平成31年9月末記入）				
10 平成32年度に向けた方向性（平成31年9月末記入）				